

令和４年度 碧南市地域福祉計画推進委員会 会議録

1 日時

令和５年３月１３日（月）午後１時３０分から午後２時５５分まで

2 場所

碧南市役所２階 談話室４・５

3 出席者

(1) 出席者 １２名

小田直樹、永坂幸子、石川治、三島博、鈴木政枝、磯貝幸雄（代理出席）、三浦志朗、對馬幸司、板倉美奈子、鳥居寛英、山田忍、瀬戸田悦子

(2) アドバイザー

日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授

(3) 事務局職員

ア 碧南市役所

福祉こども部長 深津広明、高齢介護課長 鈴木美奈子、福祉課長 山本貴史、福祉課社会福祉係長 河原睦、社会福祉係主事 畠山和也、齊木鉄馬、亀島瑞生

イ 碧南市社会福祉協議会

地域福祉課長兼地域福祉係長 村松幸雄、地域福祉係主査 古川裕隆、小島誠司

4 傍聴者

０人

5 議事

(1) 議題

ア ヘきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) ヘきなん地域福祉ハッピープランの概要

(イ) 市民の意識調査結果

(ウ) 行政の取り組み

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

イ 各地区の地域福祉活動の取り組みについて

(2) その他

6 議事の要旨

(1) 議題

ア ヘきなん地域福祉ハッピープランの進捗状況について

(ア) ヘきなん地域福祉ハッピープランの概要 及び (イ) 市民の意識調査結果
事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

なし

(ウ) 行政の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：資料33ページに記載のある、公共施設や公園、道路等のバリアフリー化は具体的な場所は。また、進捗状況は。

【事務局】：施設の長寿命化等改修を行う際にバリアフリー化を順次行っていく。最近の事例では、体育館の点字ブロックがはがれかけている部分を直した。また、道路の大規模な改修がある場合は、バリアフリー化を意識している。

【委員】：高齢者タクシー料金助成事業の対象者の拡大をお願いしたい。

【事務局】：高齢者タクシー料金助成事業は今年度10月から始めた事業であり、今後の展開については、策定中の碧南市地域公共交通計画における、くるくるバスの運行状況を考慮し研究したい。

【委員】：高齢者タクシー料金助成事業について、他市の状況は。

【事務局】：各市により公共交通の状況が異なるため、事業の内容は異なる。

(エ) 社会福祉協議会の取り組み

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

<主な意見・質疑>

【委員】：資料40ページに記載のある福祉実践教室について、具体的な内容や開催頻度は。

【事務局】：1年に1回、市内各小中学校において、授業時間を2コマ分使用し車椅子体験、手話、要約筆記、点字、高齢者模擬体験を行っている。

【委員】：一般の住民にも福祉実践教室のような福祉を学ぶ機会があるとよいと考える。また、災害時に障害のある人を取り残さない仕組みを考える

必要がある。

【事務局】：地域とのつながりを意識してもらうことは重要であるが、PRは今後の課題である。

【委員】：災害時に障害のある方はどこに逃げればよいのか。また、移動が難しい障害のある方の対応をどうするか。

【事務局】：災害時は市の定めた場所に避難してほしい。また、避難行動要支援者名簿を整備している。加えて、個別計画を作成していくことが今後の課題である。

【委員】：個別計画については、早急に着手し作成してほしい。

イ 各地区の地域福祉活動の取組みについて

事務局が会議資料に基づき説明し、その後審議した。

＜主な意見・質疑＞

【委員】：各地区のコアメンバーはどのような方がメンバーとなっているか。

【事務局】：民生委員や老人クラブ会員、地区の連絡委員、また、地域に対する気持ちのある方に参加してもらっている。

(3) その他

特になし。

(4) アドバイザー（日本福祉大学社会福祉学部 野尻紀恵 教授）による総括 活発な意見が出た会であった。いくつか気になる点を述べたい。

各地区の地域福祉推進会議を見ていて、コアメンバーの方が新しいメンバーを誘ってきている事例を見ることがある。参加率も高い。参加者は自身が楽しいと感じて参加している様子である。参加者は自身が活動していることを地域活動ととらえてはいるが、ボランティア活動ととらえてはいないのではないか。市政アンケート内の表現をボランティア活動とすると、地域活動を行っている方はアンケート項目に正しく回答できないのではないか。

碧南市地域福祉計画は市と社会福祉協議会が一緒になり作っている。また、各地区の会議においても、市と社会福祉協議会の職員が参加している。本気度の高さを感じ、評価すべき点である。碧南市は重層的な支援の計画を作っていない。しかし、市と社会福祉協議会が一緒になり作っている碧南市地域福祉計画があれば、あえて、重層的な支援の計画を作らなくてもよいかもしれない。

地域公共交通やタクシー料金助成事業について、碧南市は無料でくるくるバスを運行している。一方でタクシー料金助成事業も行っている。太っ腹である。しかし、今回、現在の仕組みでよいのかという疑問が出た。高齢者の免許証返納が今後増加してくると予想される。財源は無限ではないため、優先事項をつけて移動手段に関する制度を考えていかなければならない。西端地区は移動問題に取り組もうとしている。公的な制度を使いながら、地域の助け合いの中で、移動に困る方をどのように助けるのかを考えるのが地域福祉の重要なところ。まずは地域で顔見知りになり、地域の関係性を作るところから始めたい。

現在、学校教育のカリキュラムが変わってきている。自分が突き詰めた事柄を探求するカリキュラムが始まっている。この変化をチャンスとして、福祉実践教室ではなくて、ともに助けあう福祉教育に変化していかなければならない。ともに生きていくというイメージを子どもたちに抱いてもらわないといけない。福祉を学びたいと思ってもらえるような働きかけが必要。地域で活動することの楽しさを子どもたちに見せつけてほしい。

コロナが明けてくるとボランティア学習が再開されると思う。コロナ禍においても活動を行っていた事例が、全国社会福祉協議会や大阪府社会福祉協議会のホームページに掲載されているため、参考にしてほしい。